

作目：ナス（施設露地）

生育ステージ	気象条件	高温により発生が懸念される障害被害 (赤太字は重要被害項目)	発生要因	予防対策	発生時の対策	補足等	参考情報
全ステージ	高温時	花落ち	花芽の形成不良、花粉の不稔化	症状が発生しにくい単為結果性品種の利用			症状が発生しにくい品種については種苗会社各社のHPを参照
		ハダニ類、アザミウマ類、コナジラミ類による吸汁害	発生に適した温度条件が長く続くことで被害が拡大	薬剤の予防散布、防虫ネットの設置			
		青枯病	細菌（ラルストニア ソラナセラム）の感染	抵抗性品種（あのみりパワー（農研機構）など）の使用 抵抗性台木品種（台太郎（農研機構）、トナシム（タキイ種苗）など）を使った接ぎ木苗の使用 *1	土壌消毒、残渣の圃場外撤去	青枯病の原因となる細菌（ラルストニア ソラナセラム）の学名は、 Ralstonia solanacearum	*1 新台木品種によるナス青枯病の防除 _ (https://jppa.or.jp/archive/pdf/48_10_01.pdf)
		半枯病	糸状菌（フザリウム オキシスポルム）の感染	抵抗性品種（あのみりパワー（農研機構）など）の使用 抵抗性台木品種を使った接ぎ木苗の使用 *1	土壌消毒、残渣の圃場外撤去	半枯病の原因となる糸状菌（フザリウム オキシスポルム）の学名は、 Fusarium oxysporum	*1 新台木品種によるナス青枯病の防除 _ (https://jppa.or.jp/archive/pdf/48_10_01.pdf)
発芽育苗定植期	高温乾燥時	発芽率低下	地温が高い（発芽に適した地温は昼30℃、夜20℃前後）、乾燥	定植後は敷きワラにより土壌の乾燥と地温上昇を予防する			
		生育が揃わない、草勢低下	地温が高い（発芽適温は昼30℃、夜20℃前後）、乾燥	（施設の場合）遮光カーテン等での保護			
収穫期	高温乾燥時	着果不良、肥大遅延	花芽の形成不良、花粉の不稔化	高温着果性が高い品種の利用 不足ない十分量の灌水		単為結果性のヨーロッパ品種と、高温着果性が高い日本産品種の交配による、単為結果性によるホルモン処理が不要かつ高温でも着果できる品種の開発*2	*2 https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/naro_technical_report_no13.pdf
		つやなし果、日焼け果	強日射条件により蒸散が増加し草勢が低下するため	症状が発生しにくい品種の利用 （施設の場合）遮光カーテン等での保護、不足ない十分量の灌水			症状が発生しにくい品種については種苗会社各社のHPを参照

2025年8月時点 農研機構調べ